

1. 評価報告概要表

作成日 平成20年2月5日

【評価実施概要】

事業所番号	1172400580
法人名	有限会社大むさし
事業所名	グループホーム越生町やすらぎ
所在地	350-0416 埼玉県入間郡越生町越生969-1 (電話) 049-292-7110

評価機関名	社会福祉法人 埼玉県社会福祉協議会 福祉サービス評価センター
所在地	330-8529 埼玉県さいたま市浦和区針ヶ谷4-2-65 彩の国すこやかプラザ
訪問調査日	平成20年1月25日

【情報提供票より】(平成20年1月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤4人, 非常勤5人, 常勤換算6.3人	

(2) 建物概要

建物構造	木造造り		
	2 階建ての	1 階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	59,000 円	その他の経費(月額)	26,000 円	
敷金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (200,000円)	有りの場合 償却の有無	無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	300 円
	夕食	400 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(1月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	4 名	女性	5 名	
要介護1	2 名	要介護2	5 名			
要介護3	1 名	要介護4	1 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	75 歳	最低	64 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市川病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

当ホームは、越生駅から徒歩約10分の自然に囲まれた環境の中に位置している。日々の生活の中で、入浴時間などは基本的に自由であり、食事作りも利用者が自主的に役割分担し、メニューを職員と共に決め、食材を購入するところから始めるなど、家庭的な生活感を大切にしている。また、外出や利用者の嗜好など利用者一人ひとりの要望や思いを実現する為のケアの実践が行われている。生活の主体は利用者という職員共有の考えのもと、職員の声掛けは指示的ではなく、穏やかであり、日々、利用者一人ひとりの生活リズムで過ごせるよう支援している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回外部評価にて指摘事項だったホーム独自の理念はまだ作成されていない。今回の評価調査で管理者及び職員が、利用者のケアについて「利用者主体の日常生活を大切にするケアをしていく」という考えを共有し、日々の実践が行われていることを確認できた。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は評価の意義を理解しているが、職員全員がその意義を理解するには至っていない。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>地域や行政関係者、家族などの参加者により、定期的に開催されている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>3ヶ月に1回定期的な家族会を開催し、家族等の意見交換などがされている。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>自治会や地域の行事などに積極的に参加し、地域への理解と協力を求めていく姿勢をもっている。</p>

2. 評価報告書

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	利用者主体の「日常生活を大切にできるケア」という職員共通の考えのもと、日々の実践を行っているが、理念について明文化はされていない。		事業所としてサービスの質の確保に取り組む上での根本的な考え方を、利用者やその家族、地域に理解してもらうためにも、事業所独自の明確な理念を作成することを期待する。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は日々の生活の中で、利用者の自主的な活動を尊重し、利用者の気持ちを大切にできるケアを行っている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会への参加や、夏祭りや敬老会など地域の行事への参加を通して、地域住民との交流の機会をつくっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は、評価について把握はしているが、職員全員が評価の意義を理解するには至っていない。		自己評価及び外部評価の意義を理解し、職員全員で取り組むことで、ケアの振り返りや気づきの参考になるため、自己評価及び外部評価についてミーティング等で話し合い、日々のケアに活かしていくことを期待する。
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、利用者の日常の様子や行事などの報告を行っている。自治会、市社会福祉協議会、市福祉課、家族等の参加により、年に3回～4回定期的開催されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	諸制度の情報収集や認定調査時など、必要に応じて適宜、相談できる関係を築いている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月1回、家族などに便りを郵送し、日常生活の様子などを報告している。また、利用者の心身の変化があった場合は個々に連絡をしている。3ヶ月ごとに家族会を実施した時も個別に報告している。金銭管理の状況についても、家族会の時などに、明細を報告している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や家族の面会時に話を聞く機会を設け、家族から出た意見等はホームの運営に反映させている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の退職時には、他の職員への引継ぎを行い、利用者にも退職については挨拶や報告をして、馴染みの職員が急にいなくなることで利用者不安を抱かせないようにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修は年に、3~4回行われている。新人の育成については、日常のケアの中で先輩職員から実践で学んでいく機会を得ている。		全職員が一律ではなく、各職員が自らの立場・経験・地域密着型サービスについての理解や実践の習熟度に応じて、段階的に力をつけていけるような事業所としての計画を作成することを期待する。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内や広域内に同業者が少なく、交流の機会が持てない状況にある。		事業所団体や県単位の連絡会など、サービスの質を向上させていく目的で結成されている会に積極的に参加し、同業者との交流を図ってみたいかがか。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居前に利用者に関する情報を収集し、その後の見学で、ホームの雰囲気を知ってもらうようにして、できる限りホームの雰囲気に馴染んだ上で、入居につなげている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者から生活の知恵を学ぶことも多く、笑いの絶えない雰囲気を大切にしている。また一緒に映画を観たり、旅行に行くなど、できる限り、利用者の楽しみごとの機会をつくっている。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者の希望をその都度聞き取り、叶えるようにしている。日々の会話の中から利用者の心身の状態を把握している。個別的に散歩などの要望があった時も、チームとして対応し、できる限り実現するようにしている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>居室担当者や計画作成担当者が中心となり、家族の希望をとり入れた個別具体的な介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>3ヶ月ごとのケア会議によって見直しなどの課題の検討がされている。利用者の心身の状態の変化があった場合は、利用者の状態に合った介護計画作成のため全職員ミーティングなどによって意見交換を行い、随時見直しを行っている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の要望で、居酒屋で誕生会を行ったり、ボーリングや映画鑑賞、買い物に行くなど臨機応変で柔軟な支援を行っている。買い物はほとんど毎日のように地域のスーパーに職員と一諸に行くので顔見知りになっている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近隣の医療機関と協力があり、軽い症状でも電話で随時報告、相談できる。医療期間は、本人や家族の希望するところで受診することが可能である。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	今まで重度化や終末期などの利用者はいなかったが家族と管理者が今後の方針について検討しており、話し合いの内容は職員間で情報を共有している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	個人記録などは事務所で保管している。利用者の名前などは、本人が親しみを感じる呼び方をしている。「お母さん」と呼ばれている利用者は自然な感じで笑顔で返事をし、表情がとても豊かである。他の利用者も苗字ではなく名前と呼ばれている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員は、「 しまししょう」など指示することなく、利用者が自主的に行動できるよう、一人ひとりの生活のリズムを尊重して支援している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	決められた食事メニューはなく、日々一人ひとりの希望を聞いた上でメニューを決定している。買い物、調理、片付けなど利用者が自主的に行っている。調査日の昼食は利用者が調理し、「この次はこうしよう、ああしようなど」と和気藹々と話されていた。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴を促すため声かけを行うこともあるが、入浴の曜日などの決まりはなく、希望に沿って入浴ができる。浴室が居間のそばにあるので出入り時、職員がいつでも見守りができるようになっている。訪問調査時、利用者が一人で入浴されていた。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの希望や心身の状態に沿って外出や買い物、習字などの機会がある。訪問調査日、利用者が昼食を作っていたが、調理中の利用者の表情は生き生きとしており、手の不自由な方も座りながら包丁を握り、野菜を切るなどしており、今までの主婦としての経験が活かされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の買い物や旅行などの外出支援を行っている。また、季節ごとの花の開花に合わせた小旅行やドライブなどが頻回に行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間は玄関と勝手口には施錠がされている。日中は施錠せず、利用者が外出したいような様子の中には、その理由を把握するようにしている。地域には、いざという時の協力の要請をし、理解と情報を得ている。家族には施錠しないことへの理解と同意を得ている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年3回、利用者と避難経路、消火器の使用方法など、消防署の協力を得て実施訓練をしている。夜間時の災害を想定した訓練も実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別管理のチェック表にて、水分摂取量、排泄、食事について把握し支援している。食事量や塩分制限などについてはそれぞれに把握されている。利用者自身も自分で調整することができている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間には大きな長テーブルが1つあり、食事の時は全員の顔を見ながら食事をする事ができる。食事の時間はテレビを付けず、会話を楽しみながら和気藹々とした雰囲気の中で食事している。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具や仏壇など利用者が今まで使っていたものを持ち込むことができるなど、居心地の良い居室の環境づくりに配慮している。		